

「年輪」発行に寄せて

校長 梶 寛治



先日、生徒の皆さんに「魔法のつえ」の話をしました。この本は私が小学校5年頃に読んだと記憶しています。

私は、子どもの頃から活字が好きで、読書は心が安定する場所でもあるように思います。この本は、長い間もう一度読みたいと思っており、出版者に問い合わせをしましたが、すでに絶版とのことで、なかなか読むことが出来ずにいました。年末にようやく手に入れ、わくわくしながら、一気に読みました。

手に入れた本は、昭和26年の初版本を復刻出版したもので、当時の仮名遣いであったり、お金の単位も「銭」となっていたりと、私が読んだ時代の本と表記などで少し違った部分もあるように感じましたが、長い間引っ掛かっていたことが、すっと解けました。

さて、現在、私たちは様々な情報が簡単に行き交い、手軽に手に入れられる時代に生きています。しかし、その際に考えなければいけないことは、ネットなどから手軽に入る、あるいは得る情報の信憑性などを、しっかり検証しないといけないのだと考えました。また、個人の情報ははじめとして、何でもネットに載せてしまうことは、情報が一人歩きをしてしまい、とても危険です。「ネットに載せた情報は完全に消去することは出来ないのだ」ということも、生徒の皆さんは、よく知って行動していると思います。

本をじっくり読むことは、簡単ではなく時間が掛かります。でも時間をかけただけ、しっかりと記憶に残ります。そして、単に知識を増やすだけでなく、思考を巡らすことや完成や情緒を磨くことに繋がると思います。心を豊かにしてくれるのです。

「魔法のつえ」の主人公ビルは、“つえ”がなくなって気づきます。出会った様々な困難の何もかも“つえ”の力によって解決出来ていたことなのだ。そのことに気づかず、いい気になって、さも自分の力がすごいのだと思い込んでいたことです。ビルのそのおごった気持ちに気付かせるために“魔法のつえ”が消えたのだと思い直します。そしてビルは、謙遜の気持ちを持ち、しっかりと勉強すること、無邪気な気持ちに戻ることを誓います。

皆さんが、手軽に手に入れられるものは便利かもしれませんが、本当でないことも多いのです。良いものを作るには、素材や時間と手間がかかります。そうして完成した品物は、時を経ても輝きがあります。じっくりと時間をかけて読む本は、成長期にある皆さんの心に染み込んで、一生の宝になり輝き続けると思います。

本を読むことは、きっと皆さんをしっかりと支えてくれる「魔法のつえ」になることでしょう。

〈最近読んだ本の紹介〉

ジョン・バッカン 「魔法のつえ」

渡辺京二 「逝きし世の面影」

結びに、図書委員の皆さんには、日頃からしっかりと行っている、図書館活動に心より感謝申し上げます。

図書館報 第28号
発行者
埼玉県立
浦和商業高等学校
図書委員会